

No.1

“和のものづくり”の源流

—第0講(序論): “ものづくり原論”を如何に論ずるべきか?—

<本講の内容>

1. 開講の目的
2. 論述の原則
- 2.1 科学的実証論に基づく論述
- 2.2 グローバルな観点での検討
- 2.3 客観性の担保
3. 講義の全体構成

ものづくり原論懇話会
代表、坂本 治久 [博士(工学)]

Global Techno-Fusion

1

No.2

1. 開講の目的

グローバル(一体)化した世界において日本人が本来の力を発揮して貢献していくためには、日本の国家/社会/文化の由来とその特質を認識して主張できなければならない。そこで、この講義では、“和のものづくり”という観点から日本の文化の由来と特質を明確なものにしていくことを目的とする。

日本民族の由来と
特質の理解の軽視

↓

不正確な歴史の
強要

“欧米的善悪二元論” vs “日本の多元融和論”

↓

明治以来の“欧米的二元論”に揺さぶられる日本

“グローバリズム vs ナショナリズム”という二元論に支配された誤った思込み

↓

むしろ、
グローバル化した世界では“民族としてのアイデンティティ”を主張できなければならない!

Global Techno-Fusion

2

No.3

2. 論述の原則: 2.1 科学的実証論に基づく論述

科学的仮説の2条件: ①検証(正しさの証明手段)可能性;
②反証(誤りの証明手段)可能性。

①の「科学的に検証できる」ことだけで「科学的に正しい」と思い込む誤謬

↓

非科学的の温床

「科学的仮説が正しい」とは、「仮説が検証され、かつ、反証されない」状態を言う。ただし、同時に「潜在的に反証される可能性がある」ことも受け容れなければならない!

非科学的な仮説の事例:
宗教的真理、唯物史観、精神分析、日本の民族と文化の朝鮮半島伝説、など

“科学的な”という言葉は、仮説や事実よりも、むしろ“研究者の姿勢”に対する意味合いが大事!

参考文献[10Ise1][10Okal][10Pop1][10Tak1]

Global Techno-Fusion

3

No.4

3. “ものづくり原論”の構成について: 3.1 全体構成について

- ☆第1課: 和のものづくりの源流
特有の“平和的で受容性が高い”民族の性格を有する日本民族の誕生過程を明らかにした上で、(歴史の記述が始まる前の)先史時代の日本の“先進的なものづくり技術”の源流を明らかにする。
- ☆第2課: 和のものづくり気質の原点
中世から近世までに確立した日本固有の平等な社会と細部にこだわるものづくり精神“職人氣質”の成立過程を理解する。
- ☆第3課: 全球的視点で見るとのづくり比較文化論
東西で対照的な“ものづくりに対する価値観”を直視しつつ先進国となった国々がものづくり文化を発展させてきた歴史を振り返る。
- ☆第4課: 和のものづくり再興とその将来像
近代以降の日本のものづくりは如何に欧米の技術を追撃したか?それを踏まえて、今日のグローバル適地生産が和のものづくりに求めているものについて探る。

Global Techno-Fusion

4

No.5

3.2 “第1課: 和のものづくりの源流”の講義構成

- ☆第1講: 日本民族の由来: “受容するヒトHomo Accipientes”への道
人類の誕生から説き起こし、日本民族に特有の“受容性が高く融和的な民族的特質”の由来を科学的根拠に基づいて明らかにする。
- ☆第2講: 卓越した日本の石器時代: 旧石器時代~縄文時代の日本の先進性
ものづくりの端緒としての石器時代における和のものづくりの卓越さを明らかにする。旧石器時代から縄文時代まで、多様な文化や技術を高度に融合し、自然に融け込んだ“持続可能な生活文化”を3万5千年に渡って守り抜いた。
- ☆第3講: 稲作と鉄器の真実: 見直しを迫られる“弥生時代”という括り
誤った歴史認識の中でも特に象徴的な二つのものづくり技術、“稲作”と“鉄器”の実態を科学的根拠に基づいて明らかにする。この二つの技術で特徴づけられてきた“弥生時代”という括りは、見直しを迫られている。
- ☆第4講: 記紀が記す“ものづくり”: 素戔嗚尊と神武天皇が象徴するもの
日本の原初を記す貴重な歴史記録である古事記と日本書紀が記述する“和のものづくり”を概観し、古代日本の社会形成に大きな影響を及ぼしたものづくり技術を明らかにする。

Global Techno-Fusion

5

No.6

第0講: 参考文献

- ☆2.1 科学的実証論に基づく論述
[10Ise1]伊勢田哲治: カール・ポパーの生い立ちと哲学, 名古屋大学, http://ocw.nagoya-u.jp/files/45/sp_note03.pdf, 2007.
[10Okal]岡部晋典: K.R.Popperと図書館情報学: 反証可能性、開かれた社会、客観的知識, 筑波大学学位論文, https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=46232&item_no=1&attribute_id=17&file_no=1&page_id=13&block_id=83, 2015.
[10Pop1]Karl Popper: The Logic of Scientific Discovery, Verlag von Julius Springer, 1935.
[10Tak1]高坂邦彦: K・ポパー「開かれた社会の哲学」入門—明晰な判断と合理的な実践のために—, <http://www.2.plala.or.jp/kohsaka/>, 2007.
- ☆2.2 グローバルな観点での検討
[10Mur1]室谷 亮実: 日韓がタブーにする半島の歴史, 新潮社, 2010.
[10Shi1]沈 仁安, 藤田 友治, 藤田 美代子, 吉田 武彦: 中国から見た日本の古代—新しい古代史像を探る, ミネルヴァ書房, 2003.
[10Wik1]Wikipedia: 倭・倭人関連の中国文献, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD%E3%83%BB%E5%80%AD%E4%BA%BA%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%AE%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E6%96%87%E7%8C%AE>, 2019.
[10Wik2]Wikipedia: 倭・倭人関連の朝鮮文献, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD%E3%83%BB%E5%80%AD%E4%BA%BA%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%AE%E6%9C%9D%E9%AE%E6%96%87%E7%8C%AE>, 2019.

Global Techno-Fusion

6